

第2次緊急行財政改革実行計画を策定しました

第1次計画の取組状況

第1次（平成16年度～20年度）「津久見市緊急行財政改革実行計画」の取組も順調に推移し、平成19年度までの4年間で改革目標額を大幅に上回る実績をあげ、平成19年度末では、予測された約16億4,600万円もの財源不足を解消し、更に基金残高も約20億300万円を確保することができました。これもひとえに、市民の皆様のご協力があったからであり、心から感謝申し上げます。

第2次計画における〔財政収支の試算〕

昨年アメリカのサブプライムローン問題に端を発した「100年に1度の危機」といわれる世界的な金融資本市場の危機とそれに伴う景気後退は、ますます広がりつつあり、我が国においても、内外需の大幅な落ち込み、株価の下落、企業倒産や失業率の増加など、予想だにできなかった深刻な不況の嵐が吹き荒れ、行財政改革に必死に取り組む地方自治体にとっても、財政運営が一段と厳しい状況となっています。

第1次の行財政改革が順調に進み、このまま財政運営が好転すると思われた本市も例外ではなく、改めて行った向こう5年間の財政収支の試算では、第1次の行財政改革を行っているのにもかかわらず、このままいくと平成25年には基金が枯渇し、約7億3,700万円もの財源不足となることが判明しました。

第2次計画における目標

第1次計画で取り組んできた項目についてはもちろんのこと、職員数削減や職員給与制度改革による更なる総人件費の削減や歳入の確保対策を進め、平成25年度に予測される約7億3,700万円もの収支差を解消し、基金残高についても約3億4,000万円以上を確保します。また、将来にわたり自立可能な自治体として、基礎体力の回復を図るとともに、市民と行政による協働のまちづくりを基本姿勢に、地域コミュニティの活性化により住民力を結集し、元気ある津久見市、活力あるまちづくりに取り組めます。

「元気ある津久見市、活力あるまちづくり」への指標

- (1) 景気に左右されない産業構造の再構築と地域再生
- ア 基幹産業の発展と資源循環型社会の実現
 - イ 高い付加価値による第一次産業の再生
 - ウ 観光振興による地域再生
 - エ 市有地等の有効活用と企業立地の促進

- (2) 地域コミュニティによる地域の活力増強
- ア まちづくり協議会による住民力の集結
 - イ 地域コミュニティによる福祉のまちづくり

市民の皆様へ

第1次の行財政改革が濡れたタオルを絞ったのだとすれば、第2次の改革は、一度絞ったタオルを更に固く絞る必要があります、これまで以上に必死で取り組む必要があります。

市民の皆様にとっても行政にとっても、これまで以上に苦しい状況が続くこととなりますが、この苦しい中であっても、学校施設の耐震補強や改修など市民の生命や安全を守ることにについては、最大限の努力を行っていかねばと考えておりますし、この未曾有の大不況下で、国の経済対策や雇用対策を最大限に活用しながら、市民生活の安定を図っていくとともに、金はなくても知恵と汗を絞りながら「元気ある津久見市、活力あるまちづくり」の実現に向け、市民の皆様と心をつなげて取り組んでまいりたいと考えております。

平成21年4月

津久見市緊急行財政改革本部長
津久見市長 吉本幸司